

水稻の生育状況と今後の管理対策（第4号）

令和元年7月2日
新潟県農林水産部

〔要約〕

コシヒカリ

- ◎ 指標値（生育のめやす）に比べ、茎数が多くなっています。また、一部で葉色の濃いほ場が見られます。
- ◎ 中干しは出穂の1か月前をめどに終了し、徐々に飽水（ほうすい）管理^{*1}に移行しましょう。ただし、出穂まで間があり茎数が多く葉色が濃いほ場は、強めの中干し（なかぼし）^{*2}を行いましょう。
- ◎ 溝切りの溝が埋まっている場合は補修を行い、停滞水の排出に努めましょう。

つきあかり・ゆきん子舞・こしいぶき

- ◎ 穂肥（ほごえ）^{*3}の適期施用が収量を確保するポイントです。直ちに幼穂（ようすい）^{*4}を確認して、速やかに穂肥を施用しましょう。

*1 飽水管理：土壌を湿潤状態に保つこと。

*2 中干し：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと。

*3 穂肥：穂が出る前に追肥すること。

*4 幼穂：穂が出る前の生長途中の穂。

〔7月1日現在の生育〕

- コシヒカリは、指標値（生育のめやす）に比べ、草丈が「並」、茎数が「多い」、葉数の進みが「やや早い」、葉色が「並」の状況です。
- 長岡市に設置した調査ほ場の早生品種つきあかり、ゆきん子舞、こしいぶきの茎数は、指標値に比べ、それぞれ「少ない」、「並」、「並」の状況です。また、つきあかり（5月8日植え）は6月28日、ゆきん子舞（5月1日植え）は6月29日に幼穂形成期を迎え、こしいぶき（5月10日植え）は7月1日時点で、幼穂が確認され始めています。

〔今後の生育見込み〕

- 6月10日発表のエルニーニョ監視速報によると、夏にかけてエルニーニョ現象が続く可能性が高く、夏期の低温や日照不足が心配されます。そのため、中干しが不十分となった場合は、籾数過剰に起因する品質低下や屑米の増加による減収を招く可能性があります。
- また、6月27日発表の1か月予報（6月29日から7月28日まで）によると、気温はほぼ平年並、降水量は多い、日照時間は少ないと見込まれます。そのため、葉色が濃いコシヒカリでは、稈の伸長や稲体の軟弱化による倒伏が懸念されます。なお、コシヒカリの出穂期は、葉数の進みと同様に、平年と比べやや早いと予想されます。

[当面の管理対策]

- コシヒカリは、出穂の1か月前をめどに中干しを終了しましょう。その後、発根促進や根の活力を維持するため浅水の間断かん水を実施し、徐々に飽水管理に移行しましょう。
ただし、出穂まで間があり茎数が多く葉色が濃いほ場では、籾数過剰や稈の伸長による倒伏を回避するため、田面に小ひびが入る程度よりも強めの中干しを行いましょ。う。
中干しの効果を十分に得るため、また、収穫時の機械作業が可能な地耐力を確保するため、溝切りの溝が埋まっている場合は補修を行い、停滞水の排出に努めましょ。う。
- 調査ほの早生品種のうち、つきあかりとゆきん子舞は幼穂形成期を迎えており、1回目の穂肥施用の適期となっています。また、こしいぶきは幼穂が確認され始めており、まもなく1回目の穂肥施用の適期となります。早生品種は、直ちに幼穂を確認し、遅れずに穂肥を施用ましょ。う。穂肥施用の時期・量は、地域ごとの技術対策を参考にましょ。う。
- いもち病の感染好適条件が観測ましょ。う。特に、早生品種や多収性品種では、葉いもちの発生状況に注意し、病斑が見つかった場合は速やかに防除を行いましょ。う。
- 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ）の畦畔すくい取り虫数が平年に比べて多い地域が見られます。7月中旬頃までに畦畔や水田周辺の雑草地などの草刈りを行い、斑点米カメムシ類の発生密度を抑えましょ。う。たう。えで、薬剤による防除を徹底ましょ。う。
- 農作業は気温の高い時間帯を避け、作業時は水分を適宜補給するなどして、熱中症事故を防止ましょ。う。

◎ 今後の管理対策発行予定日	7月11日・19日・26日・31日、8月21日、9月11日
----------------	-------------------------------

〔補足資料〕

1 農業普及指導センター及び作物研究センターにおける生育状況

- コシヒカリは、指標値（生育のめやす）に比べ、草丈が「並」、茎数が「多い」、葉数の進みが「やや早い」、葉色が「並」の状況です（表1）。
- 茎数は、つきあかりは「少ない」、ゆきん子舞は「並」、こしいぶきは「並」の状況です（表2、表3、表4）。

(1) コシヒカリ

表1 県内全域のコシヒカリ生育調査ほ調査結果（7月1日現在）

項目	本年値	指標値 (県平均)	指標値 との比較	指標値比・差
草丈	51 cm	52 cm	並	98%
茎数	530 本/m ²	477 本/m ²	多い	111%
葉数	10.3 葉	9.9 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色 (SPAD 値)	38.7	38.5	並	+0.2

注) 県内全域の生育調査ほデータの平均値

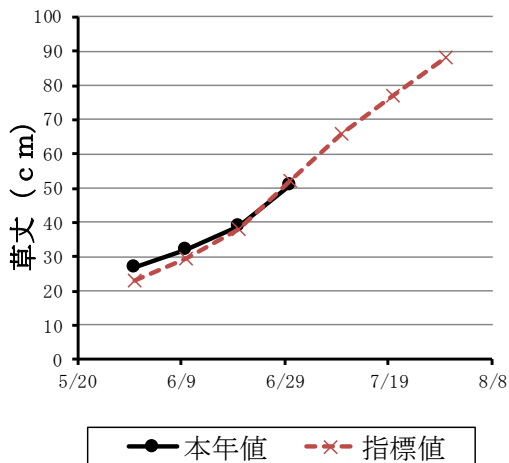


図1 コシヒカリの草丈の推移
(県全体)

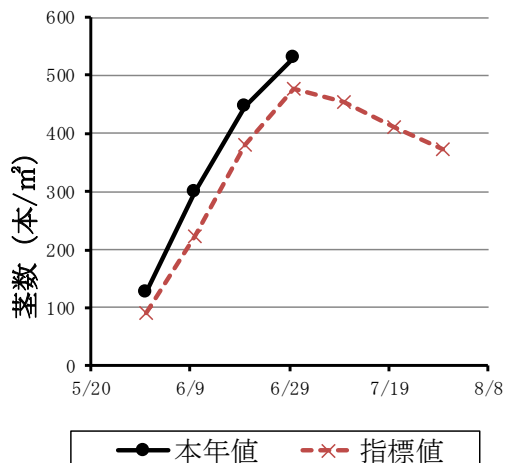


図2 コシヒカリの茎数の推移
(県全体)

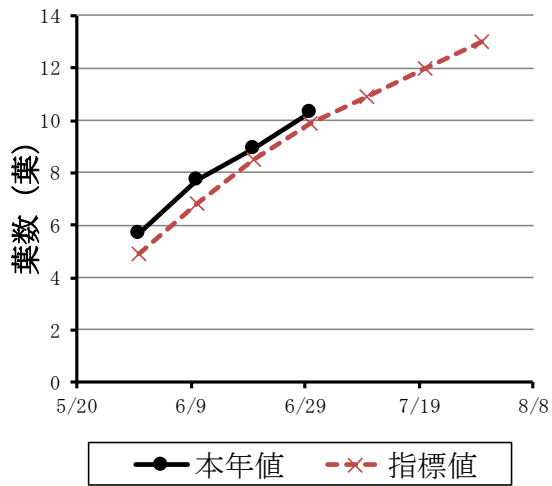


図3 コシヒカリの葉数の推移
(県全体)

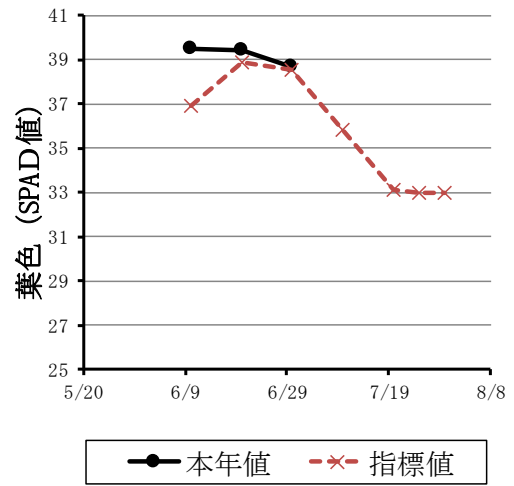


図4 コシヒカリの葉色の推移
(県全体)

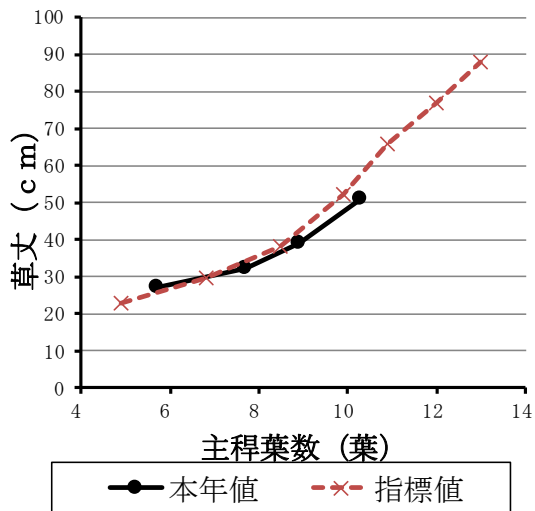


図5 コシヒカリの葉数と草丈

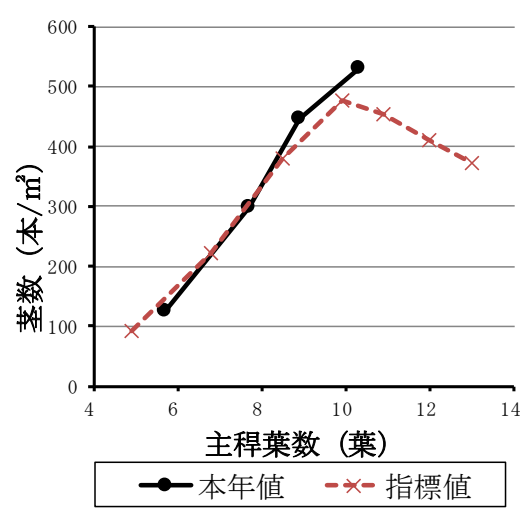


図6 コシヒカリの葉数と茎数

(2) つきあかり、ゆきん子舞、こしいぶき

表2 つきあかりの生育調査ほ調査結果（7月1日現在）

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	63 cm	61 cm	並	103%
茎数	371 本/m ²	520 本/m ²	少ない	71%
葉数	10.7 葉	9.8 葉	早い	+0.9 葉
葉色 (SPAD 値)	42.5	45.0	淡い	-2.5

注1) 化成肥料栽培。田植え5月8日、栽植密度は21.2株/m²

注2) 基肥窒素成分量 7.0kg/10a

注3) 2019年 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

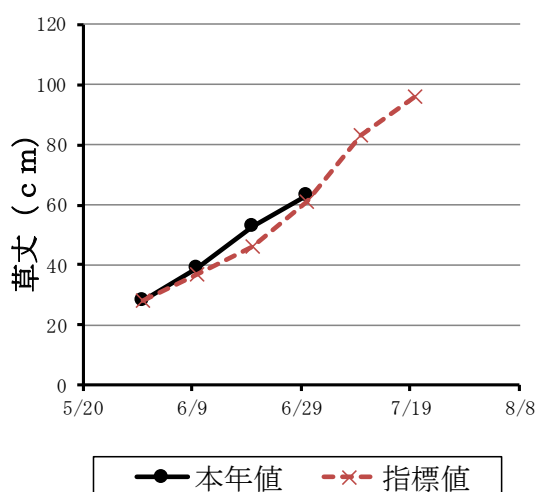


図7 つきあかりの草丈の推移（長岡市）

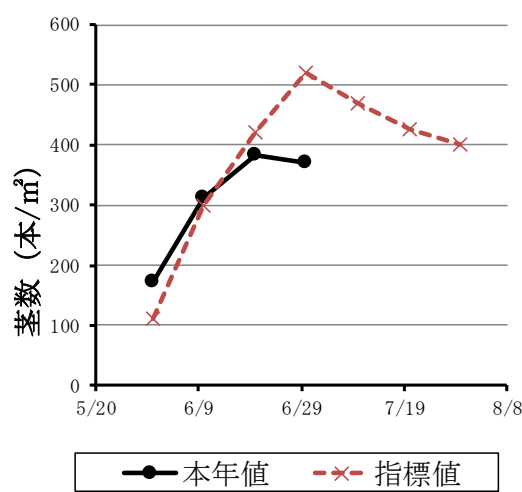


図8 つきあかりの茎数の推移（長岡市）

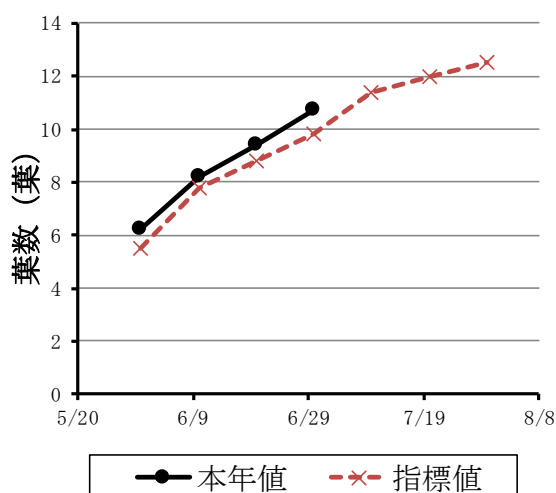


図9 つきあかりの葉数の推移（長岡市）

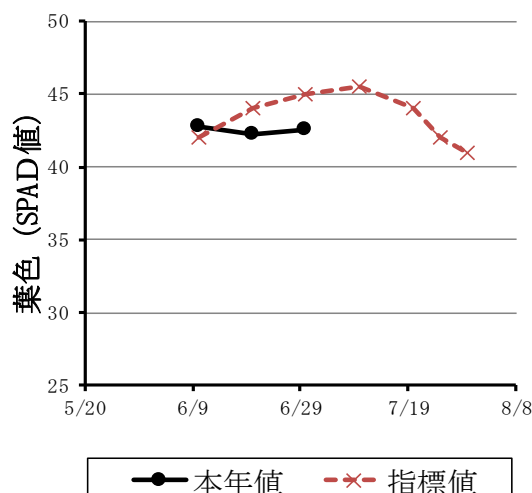


図10 つきあかりの葉色の推移（長岡市）

表3 ゆきん子舞の生育調査ほ調査結果（7月1日現在）

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	61 cm	60 cm	並	102%
茎数	654 本/m ²	640 本/m ²	並	102%
葉数	11.3 葉	10.0 葉	早い	+1.3 葉
葉色 (SPAD 値)	38.1	39.0	並	-0.9

注1) 化成肥料栽培。田植え5月1日、栽植密度は18.8株/m²

注2) 基肥窒素成分量 2.8kg/10a(前作枝豆)

注3) 長岡市高野町の生育調査ほデータ

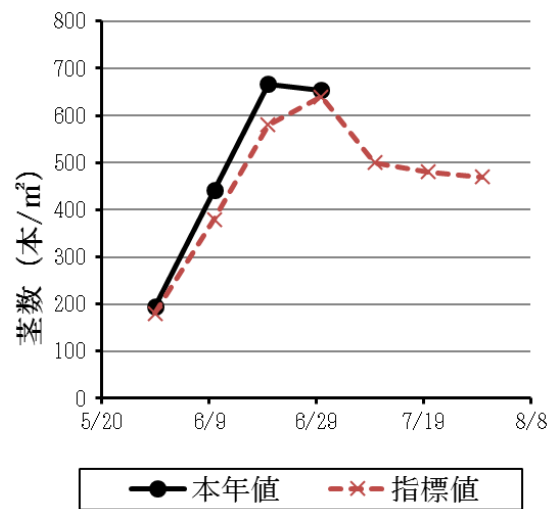
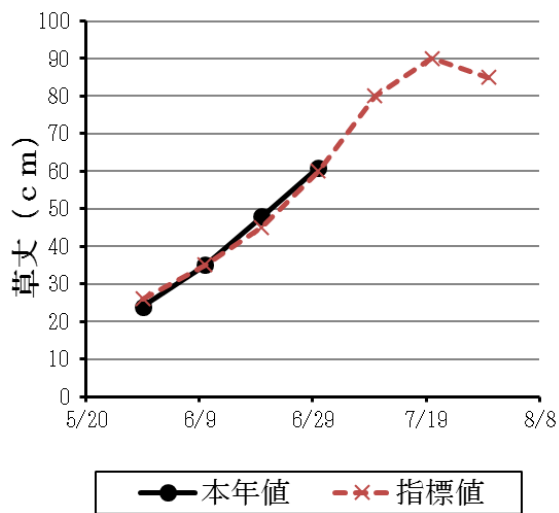


図11 ゆきん子舞の草丈の推移
(長岡市)

図12 ゆきん子舞の茎数の推移
(長岡市)

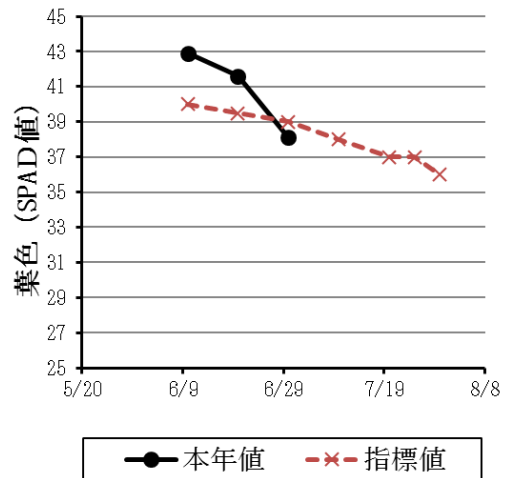
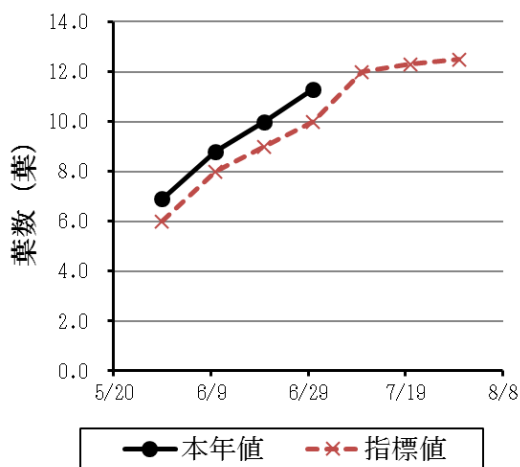


図13 ゆきん子舞の葉数の推移
(長岡市)

図14 ゆきん子舞の葉色の推移
(長岡市)

表4 こしいぶきの生育調査ほ調査結果（7月1日現在）

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	52 cm	50 cm	並	104%
茎数	603 本/m ²	599 本/m ²	並	101%
葉数	10.3 葉	10.2 葉	並	+0.1 葉
葉色 (SPAD 値)	39.6	39.2	並	+0.4

注1) 化成肥料栽培。田植え5月10日、栽植密度は19.6株/m²

注2) 基肥窒素成分量 3.0kg/10a

注3) 2019年 長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ

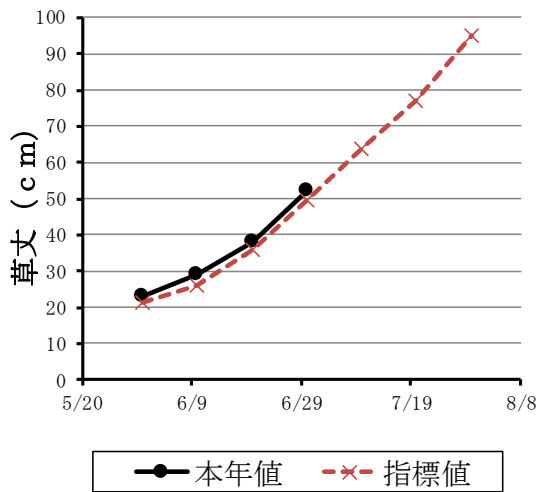


図15 こしいぶきの草丈の推移（長岡市）

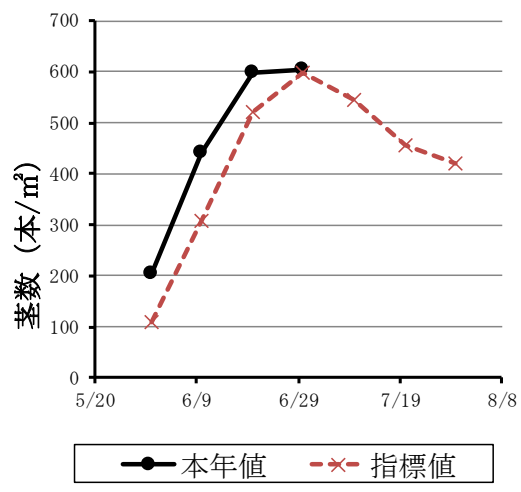


図16 こしいぶきの茎数の推移（長岡市）

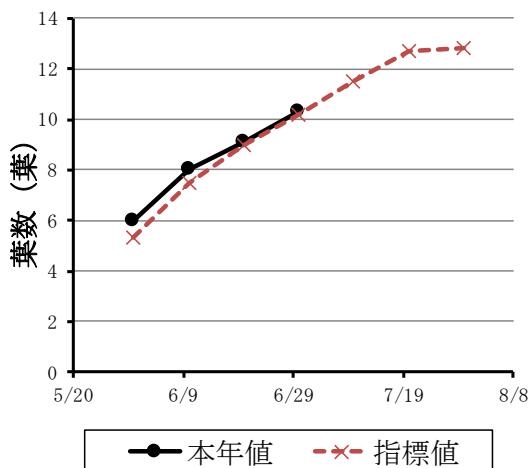


図17 こしいぶきの葉数の推移（長岡市）

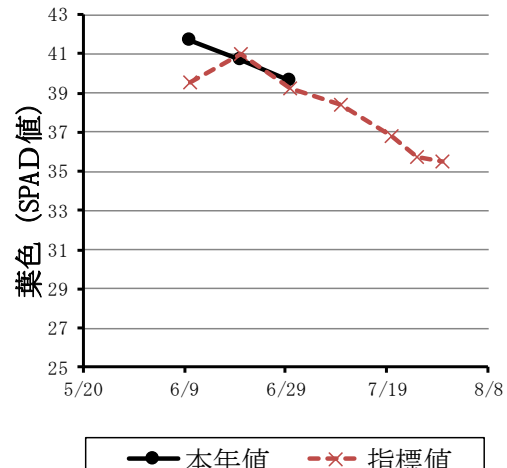


図18 こしいぶきの葉色の推移（長岡市）

2 ちりよく 地力窒素の発現状況

- 6月19～30日の日平均地温は平年差-0.2℃でほぼ平年並だった。この地力窒素の発現量は化学肥料区（化肥区）、堆肥施用区（堆肥区）ともに平年並からやや多くなった。条間窒素含量は、大きく低下し平年同様に条間窒素の残存量は、ほとんどない（表5および図19～23）。

表5 地力窒素の発現状況（農総研基盤研究部調査） (mgN/100g)

調査日		6月19日①	6月30日②	地力窒素発現量 ^{※1} (③=②-①)
化学肥料区	本年値	5.6	6.2	0.6
	前年値	5.2	5.7	0.5
	平年値	3.8	4.2	0.4
堆肥施用区	本年値	6.4	7.1	0.7
	前年値	5.4	5.9	0.5
	平年値	4.7	5.2	0.5

※1 小数点2ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

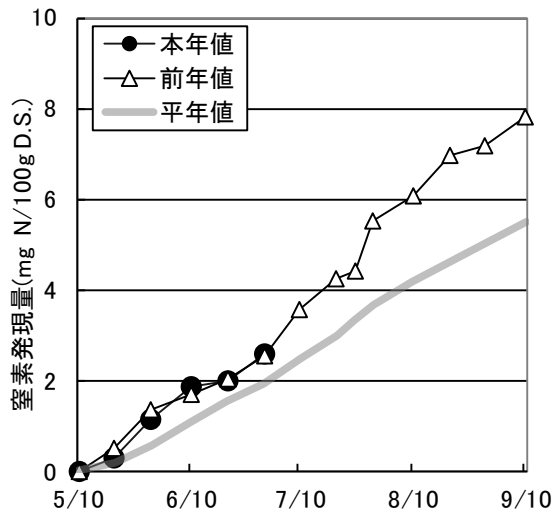


図19 地力窒素の発現推移
(化肥区；初期値を0とした)

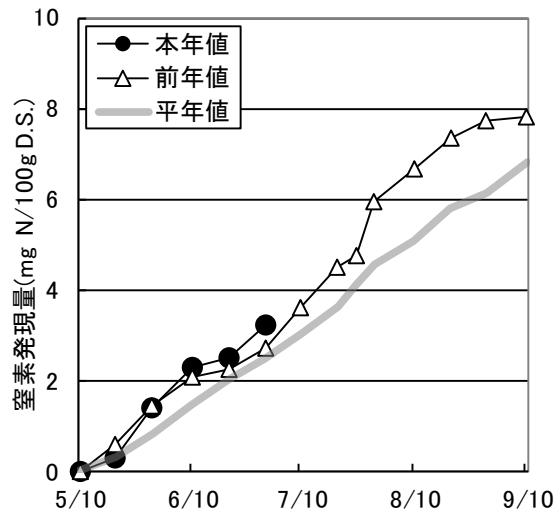


図20 地力窒素の発現推移
(堆肥区；初期値を0とした)

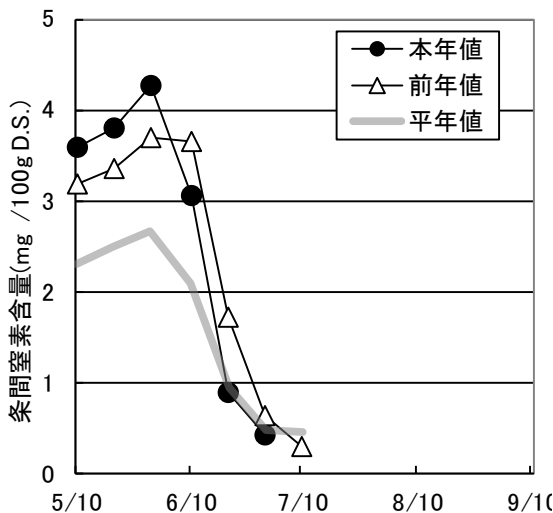


図21 条間窒素含量の推移（化肥区）

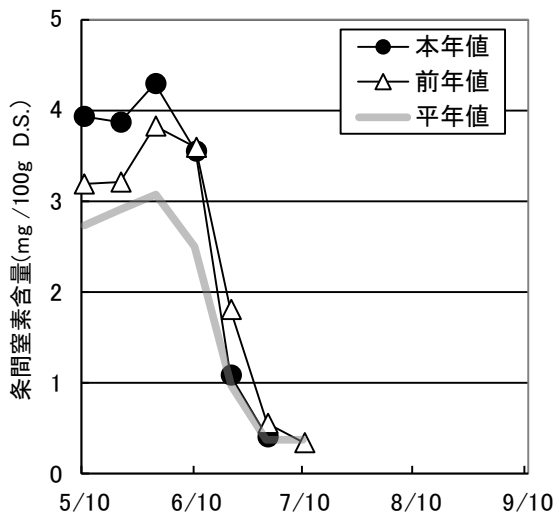


図22 条間窒素含量の推移（堆肥区）

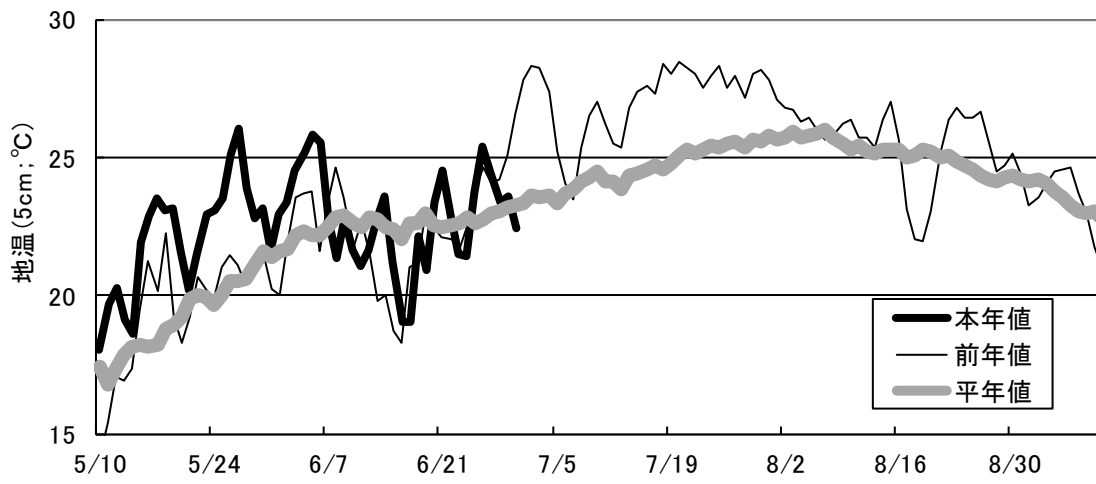


図 23 地温 (5 cm) の推移